

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以って人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結むすび

偏ひとへに詩歌しにかを採さぐつて妙聲みょうせいを琢みがく

風雅ふうがの精神せいしん 承継しょうけいを誓ちかい

更さらに期きす吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの誠まこと



挨拶

鵬翔流吟友会
会長 梶田鵬翔

やわらかい春の陽ざしを浴びて、色とりどりの美しい花が咲き誇り、小鳥も近くまで飛んで来ては楽しそうにおしゃべりをしているように聞こえます。さて、今年の初吟会はオミクロン感染症蔓延防止の為に、初めて中止になりましたが、当会より誰も感染者が出なかつた事が、何よりも有難いことです。

さらに世界は、長引く二か国の争いの渦の中に引き込まれ兼ねないと、誰もが憂慮している昨今です。一日も早く平和が訪れますように願ってやみません。

そのような中ではありますが、感染対策もしつつかりして、日本の風雅を楽しみ、心を解き放ちて明日への希望へと繋がりますように本日は思い切り吟じて頂きたいと思えます。

また、本年度より後援会会長をお引き受け頂きました近森憲一様を初め、顧問の桑名龍吾県議会議員、竹村邦夫市議会議員の先生、来賓の上本竹永先生、内田紫紅先生、そしていつも素晴らしい舞を添えていただいております、大崎麗蒼先生、中岡あき先生、竹内麗岱先生、どうぞよろしくお願い申し上げます。尚、本日の懇親会につきましては、大変残念ですが中止とさせて頂きますので、ご了承下さいませ。三寒四温の季節の変わり目、どうぞどなた様にかかれましてもお身体をお大切に御元氣にお過ごしくださいませ。

本日は公私ともにご多忙な折、また遠方からもお運び頂きまして誠に有難うございました。

大会係り役員

大会会
大会副会
大会副会
大会副会
大会副会
大会実行副委員長
大会実行副委員長
大会事務局

会場準備

受付案内

梶田 龍翔
飯田 龍祥
山中 清翔
川添 龍雄
笹岡 蒼翔
川添 龍雄
宝蔵 瑤光

笹岡 蒼翔
横山 熙光
大野 正翔
西山 博貴
川添 龍雄
(屏風運搬)

中西 龍篤
山村 彩光
川村 櫻翔

会費会計

接待

司会

会場進行

音響

記録広報

飯田 龍祥

宝蔵 瑤光
宝蔵 正

森田 蓮光
戸田 燁紫

飯田 龍祥
松木 鴻光
松代 怜翔
戸田 燁紫

笹岡 蒼翔
大野 正翔
横山 熙光
西山 博貴

山中 清翔
鎌田 耀紫

川添 龍雄
戸田 燁紫

川添 龍雄
戸田 燁紫

「風雅を楽しむ春の集い」 式典

〈敬称略〉

(一) 開式挨拶

川添 鵬雄

(二) 鵬翔流吟友会理念朗読

先導

笹岡 蒼翔

(三) 鵬翔流吟友会会詩合吟

先導

中西 鵬鶯

(四) 会長挨拶

梶田 鵬翔

(五) 来賓挨拶

六六庵吟詠会高知県本部 本部長

上本 竹永

高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

桑名 龍吾

高知市市議会議員・鵬翔流吟友会顧問

竹村 邦夫

鵬翔流吟友会後援会 会長

近森 憲一

(六) お免状授与

(七) 新役員委嘱状授与

(八) 財政・事業報告

(九) 新入会員紹介

第一部

合

吟

1 烏江亭に題す

2 春風

作者 杜牧

作者 白居易

介添

宝川村
蔵瑤光

山中清翔

飯田鵬祥

男 性

女 性

第二部

絶句「風雅をつむぐ」(その一)

3	寶 船	作 者	藤 野 君 山	高知県議會議員 鵬翔流吟友会顧問	桑 名 龍 吾
4	寶 船	作 者	藤 野 君 山	高知市市會議員 鵬翔流吟友会顧問	竹 村 邦 夫
5	嵐山に遊ぶ	作 者	頼 山 陽	棧 橋 教 室	小 松 成 紫
6	花朝澱江を下る	作 者	藤 井 竹 外	長 浜 教 室	森 田 蓮 光
7	清平調詞(其の三)	作 者	李 白	東 雲 教 室	宝 蔵 瑤 光
8	寒 梅	作 者	新 島 襄	東 雲 教 室	松 木 鴻 光
9	芙蓉樓にて辛漸を送る	作 者	王 昌 齡	棧 橋 教 室	西 村 清 年
10	早に白帝城を発す	作 者	李 白	宇 佐 教 室	大 野 正 翔
11	石 鎚 山	作 者	海 量 法 師	東 雲 教 室	宝 蔵 正

12 清平調詞（其の二）

作者 李白

東雲教室

戸田燁紫

13 暁に發す

作者 月田蒙齋

棧橋教室

公文松翔

第三部 構成吟「和歌と絶句の旅」

14 こちふかば
九月十日

作者 菅原道真

宇佐蔭台教室

中西代伶鶯

15 よしのやま
芳野に遊ぶ

作者 菅田知紀

東雲教室

戸田蔵瑤紫

16 かぜさそう
泉岳寺

作者 浅野内匠頭

南国教室

笹岡蒼翔

17 わがむねの
偶感

作者 平野国臣

高須教室

横山熙光

18 しらたまの
山中幽人と對酌す
作者 若山 牧水
高須 教室
川添 鵬雄

第四部 歌謡吟詠

19 熊本城
作詞 仁木 葉子
南国 教室
笹岡 蒼翔

20 夫婦一輪
作詞 はち 惣平
長浜 教室
森田 蓮光

21 綾子舞
作詞 青山 一之
長浜 教室
川村 櫻翔

22 沖田総司
作詞 石本 美由紀
高須 教室
横山 熙光

23 祇王妓女
作詞 仁木 葉子
蒔絵 台教室
松代 怜翔

24 悲恋静御前
作詞 岩田 道之輔
宇佐 教室
中西 鵬鶯

25 桂小五郎と幾松
作詞 榊原 帰逸
高須 教室
飯田 鵬祥

第五部

絶句「風雅をつむぐ」(その二)

26 繪の島

作者 菅茶山

高須教室

山村彩光

27 汪倫に贈る

作者 李白

高須教室

鎌田耀紫

28 偶成

作者 朱熹

宇佐教室

西村雄紫

29 春初感を書す

作者 安積良斎

長浜教室

川村櫻翔

30 江南の春

作者 杜牧

長浜教室

岩田晟光

31 山中諸生に示す

作者 王守仁

南国教室

西山博貴

第六部

役員吟詠「吟情泉の如く」

32 啓蟄

作者 飯田鵬祥

高須教室

飯田鵬祥

33 楠公を詠ず

作者 日柳燕石

高須教室

川添鵬雄

34 竹里館

作者 王维

高須教室

山中清翔

第七部

来賓「華麗なる吟と舞」

(順不同)

35 漢詩一題

六六庵吟詠会高知県本部 本部長

上本竹永

36 春日周遊

作者 内田紫紅 四国漢詩連盟理事

内田紫紅

37 白鷺城

作詞 市川昭介 土佐麗陽会

竹内麗岱

38 みだれ髪

作詞 星野哲郎 花柳流

中岡あき

39 君を想う

作詞 土佐麗陽会宗家

大崎麗蒼

第八部

会長吟詠

40 冬夜親を思う

作者 梶田鵬翔

41 我が道

作詞 仁木葉子

鵬翔流吟友会 会長

梶田鵬翔

42 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

山中清翔